

ヴィオラとピアノで紡ぐシューベルトの歌曲の世界!

安達真理 佐藤卓史

オール・シューベルト デュオリサイタル

柔らかさと歌謡性が特徴的な「うた」を安達真理のヴィオラで表現
現代随一のシューベルト弾き、佐藤卓史を招いて
現代のシューベルトアーティスト

第2弾

2022年

5月8日(日)

13:30 開場/14:00 開演

入場料: 会員4,500円(座席指定可) /
一般5,000円/学生2,500円(全席自由席)

平間至

安達 真理 (ADACHI Mari) Viola

桐朋学園大学卒業後、ウィーン、ローザンヌと国内外で研鑽を積み、2013年からはインスブルック交響楽団にて副首席奏者を2年間務めた。現在東京を拠点に、ソリスト、室内楽奏者として幅広く活動するなか、2021年日本フィルハーモニー交響楽団ヴィオラ客演首席奏者に就任。今年1月には自身三作目となるCD「MY DEAR」をリリース。

オフィシャルサイト

<https://www.mariadachi.com>

フランツ・シューベルト:

ガニュメート D544

音楽に寄せて D547

ます D550

五月の歌 D503

涙の賛美 D711

君は憩い D776

夕映えの中に D799

男はみんな浮気者 D866-3

『美しき水車屋の娘』D795より

2.どこへ? 6.知りたがり 7.いらだち 8.朝の挨拶 10.涙の雨 14.狩人 18.しほめる花 19.水車屋と小川

「しほめる花」の主題による変奏曲 D802

他

*プログラム等は、やむを得ない事情により変更になる場合がございます。

佐藤 卓史 (SATO Takashi) Piano

2007年シューベルト国際コンクール優勝後、世界各地での演奏活動を通して「現代随一のシューベルト弾き」の評価を確立。

2014年開始の「佐藤卓史シューベルトツィクルス」ではシューベルトのピアノ曲全曲演奏に取り組む。

日本音楽コンクール第1位、エリザベート王妃国際コンクール入賞、カントゥ国際コンクール第1位など受賞多数。内外のオーケストラと共演、また録音・作編曲・室内楽など幅広い分野で活動している。

www.takashi-sato.jp



●ご予約・お問い合わせ 株式会社 ILA (美竹清花さろん) 03-6452-6711 (平日 10:00-18:00)、070-2168-8484 (時間外可) Webサイト: <https://bit.ly/3GZNGcq>

123
Mitake Sayaka Salon (Vol.111)

安達真理 & 佐藤卓史

オール・シューベルトデュオリサイタル

ヴィオラとピアノで紡ぐシューベルトの歌曲の世界!

現代随一のシューベルト弾き、
佐藤卓史を招いて
現代のシューベルトアーティストを
柔らかなと歌謡性が特徴的な「うた」を
安達真理のヴィオラで表現

"シューベルトティアーデ (Schubertiade)"という言葉をご存知でしょうか。当時、シューベルトの友人たちの自宅サロンで、シューベルトを開いて開催されたコンサートのことを称します。

シューベルト(1797~1828)の没後約200年の時を経た現代でも、彼の作品を愛し、研究する奏者によって、その作品の素晴らしさをシューベルトティアーデとして再現されています。

美竹サロンでは、まさに当時の"シューベルトティアーデ"を彷彿とさせるような、サロンコンサートが二人の名手によって再現されます。

シューベルトの柔らかさと歌謡性が特徴的な"うた"を表現するのは、ヴィオリスト安達真理氏。彼女の表現力の高さには定評があり、その演奏によってヴィオラの魅力に開眼したという話をよく耳にします。

そして、あたたかく溶け合うような音色やハーモニーでその作品を照らすピアニストは、"現代随一のシューベルト弾き"の評価を確立している佐藤卓史氏。

驚くべきことに、彼の風貌は、まるで和製シューベルトのよう...!彼のシューベルトツィクルスを初めて拝聴したとき、シューベルトのどこか迷えるような奥深い森に入っていきような感覚に陥りました。作品を表すために必要な完璧かつ巧みな技からは、シューベルトへの深い敬愛の念を感じられずにはられません。

そんな期待大のお二人に、第2回目となるオール・シューベルト・プログラムについて、メッセージをいただきました。

前回ご好評いただいた、佐藤卓史さんとのオール・シューベルト・プログラムでお送りした「シューベルトティアーデ」。『冬の旅』と『アルペジオーネ・ソナタ』など、シューベルトの晩年の作品を中心にお楽しみいただきました。第2弾となる今回は、『冬の旅』、『白鳥の歌』と並んでシューベルト3大歌曲集のひとつとされる『美しき水車小屋の娘』、そしてその中の「しほめる花」のメロディを主題として作曲された『フルートとピアノのための変奏曲』をメインに、5月という初夏の爽やかな季節に乗せて、甘酸っぱい青春を描いてみようと思います。佐藤さ

んのシューベルト愛にいざなわれて、私もヴィオラという楽器の可能性を超えて、シューベルトの歌曲の未知なる世界にどんどん踏み込んでまいります。この稀少な体験を是非一緒に。(安達 真理)

安達真理さんとの2回目の「シューベルトティアーデ」、今回のメインは『美しき水車屋の娘』です。前回取り上げた『冬の旅』と同じミュラーの詩による(ちなみにミュラーとはドイツ語で「水車屋」の意)、「アナザーストーリー」ともいべき連作歌曲です。恋に破れた若者は、今回は終わりのない放浪の旅に出るのではなく、心の友である小川に身を投げて死ぬという結末を選びます。そのエンディングは悲しいものではありませんが、主人公の一途さが共感と救いをもたらします。

そこまで一途ではない男たちは、川底を掻き乱して無垢な『ます』を捕まえようとしたり、挙げ句に現場を押さえられて『男はみんな浮気者!』と吊上げられたり。あるいは静かな愛をロマンティックに歌う『君は憩い』や、つらい時代をともにしてくれた音楽に感謝を捧げる『音楽に寄せて』などなど、さまざまな“愛”のかたちをヴィオラとピアノで提示するひとときとなることでしょう。作曲家生前のシューベルトティアーデでも大喝采を博したであろう『しほめる花』変奏曲の超絶技巧にもご期待下さい! (佐藤 卓史)

シューベルトの音楽は、流動性の中に様々な要素が内在し、想像力を掻き立てられます。

悲しみと喜び、生と死、過去と現実、、、彼は何を思っでこれらの作品を描いたのでしょか。まるで私たち聴き手に疑問を投げかけているようにも感じられます。

今回は、シューベルトの代名詞でもあるドイツリートが多く取り入れられたプログラムにも、何か意味深いものが感じられます。

転調のたびに感じられるシューベルトの精神性を、心の赴くままに感じてみませんか。

(美竹清花さろん)



世界に通用する才能溢れる
「トップアーティストが
続々と集結!

大ホールのプラチナ席をしのご
生演奏の醍醐味、
一期一会で味わう圧倒的な臨在感。

日本のトップクラスの若手演奏家が、
こだわり抜いた価値ある企画をお届けしていきます。
美竹清花さろんが追求する“本物の音楽”は、
演奏者と参加者とわたしたちの、
三位一体の努力と対話から生まれます。

大好評につき
サロン・メンバーズ
追加募集中!



誕生。
クラシック音楽サロン、
宮益坂、
渋谷駅 徒歩2分



●お問い合わせ
株式会社 ILLA (美竹清花さろん)
東京都渋谷区渋谷1-12-8 (〒150-0002)
☎ 03-6452-6711 (平日 10:00-18:00)
070-2168-8484 (時間外可)
Fax 03(3409)0188

